

Dr. Toshiyuki Kameoka is a Professor of the Department of Health, Behavior, and Society, Johns Hopkins University. He is also a senior advisor at the Center for Communications Programs. Dr. Kameoka has a background in epidemiology and has been involved in various research projects related to HIV prevention and reproductive health. He is currently leading a research team that is developing and evaluating a new intervention to reduce the risk of HIV transmission among men who have sex with men.

Kazuaki in the school band?” “Does he practice five days a week?” というような単純なもので十分である。

5 Dictation

さて授業 1 回目の最後の活動は、dialog の書き取りである。これも CALL 教室の機器をフル活用して生徒に興味を持たせながら、効率よくまとめができる。

K: I have so _____. You know I am _____ and ... と続いていくが、画面のブランクの部分に、先ほど録音したものを聞き直しながら書き込む。時間を決めて提出させ、そのあとに解答を示し、間違いを訂正させる。

6 Home assignment

この宿題は、レッスンの復習と次レッスンの導入を兼ねている。『学習ノート』を使い、

- 1) 日本語を英語に直し、声に出してみよう。
 - a. 僕には暇な時間がほとんどない。
- 2) 質問に英語で答えよう。
 - a. Why does Kazuaki have so little free time?
 - b. Do you like to stay home or go out when you are free? (以下省略)

を生徒に指示する。ここまでの活動を50分の授業で行う。CALL 教室を使うことで、授業は規格化され、テンポ良く、効率の良い授業となる。

7 Check the assignment (第2回目の授業)

“Good afternoon, everyone. Do you remember why Kazuaki has so little free time?” というような宿題に則した質問から入り、“Suzuki kun, do you like to go out or stay home?” と何人かの生徒に聞いていくうちに、「出かけない派」と「出かける派」にグループを分けていく。debate のようなことは準備がないとできないが、2 つに分けた後に、相手のグループに、“Why

do you like to go out?” “Because I like to eat out.” などとやりとりができる。この活動は20分くらいかかるが、とても creative な答えが出てきたりする。このような productive な、テンポの良いやりとりは、今までの活動がベースになり、receptive から順序よく productive へとスムーズに授業が構成されているからである。

8 More exercises on the related topic

これは学習した内容を異なった題材で応用する活動である。定着度を高める効果を期している。

これまでは、実用英語検定準2級程度の問題から適切なものを探し使用してきた。しかし、改訂版からは『Listening Challenge 補充問題集』が加わり、より幅の広い活動が可能になった。小テストとしても位置づけることができる。この補充問題集は形式も工夫されていて、センター試験の対策にも応用できるであろう。

9 Listening test の実施

定期試験に学年共通の50分のリスニングテストを実施している。なぜ学年共通のリスニングテストかというと、既習内容の総合診断と初級、中級、上級というクラスの到達目標の確認が必要のためである。

* * *

英語が苦手、動機が低い生徒に必要なものは、楽しさ、集中性、多彩な活動、機器の使用である。しかし、最も大切なのは「規格化」である。授業の展開をパターン化し、生徒が次に来る活動を熟知していることが、学習度をどんなに高めることだろうか。私たちは5年前の採用初年度、*Departure* の生徒用、教師用の付属教材を全て使用した。その結果が現在の授業展開の「規格化」につながっていることは言うまでもない。慶應義塾高等学校のOCIは*Departure*と共に始まった。(まつばら かずのり・慶應義塾高等学校教諭)